

## 薬物問題の現状

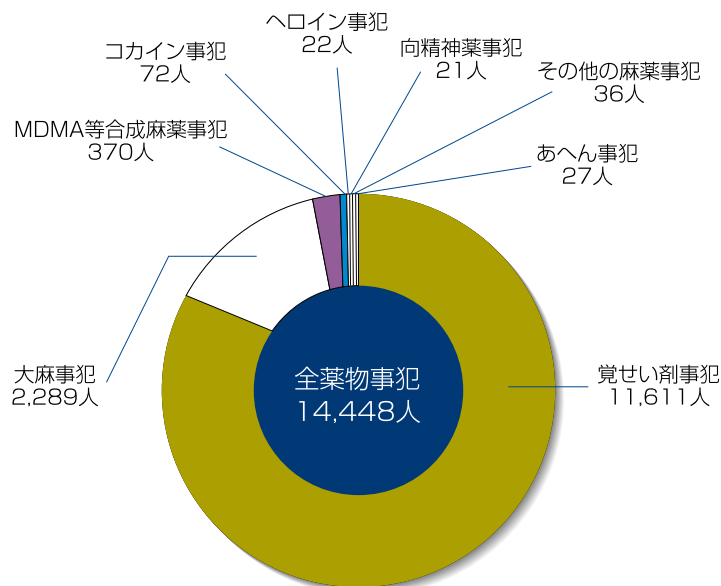
### 1. 覚せい剤事犯

平成18年中の覚せい剤事犯の検挙人員は11,611人で、前年より減少しましたが、依然として全薬物事犯検挙人員の約8割強を占めています。

覚せい剤事犯の検挙人員の過半数を暴力団構成員及び準構成員が占めている（P.8参照）ほか、来日外国人による覚せい剤事犯の検挙人員が424人（前年比+12人、+2.9%）と増加しました。

また、押収量は、覚せい剤粉末が125.0kg、錠剤型覚せい剤が56,886錠と、ともに増加しており、密輸入事犯に係る押収が、覚せい剤粉末は104.9kg（+72.7kg、+225.8%）、錠剤型覚せい剤は56,680錠（+30,351錠、+115.3%）といずれも増加し、全押収量の大半を占めています。

●薬物事犯別検挙人員(平成18年)



●覚せい剤事犯検挙状況の推移(昭和26年～平成18年)

